

文化と宗教の多様性

名前 _____

_____ 月 _____ 日

現代社会

憲法

政治

経済

国際社会

これから

今日の問い

文化や宗教のちがいがあある世界で、どうすればたがいに理解し合えるのだろう。

下線に当てはまる語句を書こう。同じ番号には同じ語句が入る。左の欄の説明もヒントにしよう。

1 文化の多様性と摩擦

文化摩擦

1 文化のちがいから起こる
対立や行きちがいがい。2 自分と異なる文化を知
り、尊重すること。3 人類共通の宝としてユネ
スコが登録するもの。

世界の国々には、言語、食べ物、服装、習慣など、それぞれの歴史や自然に根ざした多様な文化がある。人や情報の行き来がふえるにつれて、文化のちがいから行きちがいがい対立が生まれることもあり、これを ¹ _____ という。たとえば、宗教によって食べてよい物が決まっている国や地域があり、食事の場でとまどう例もある。日本の食文化や祭りなども、外国の人にとっては新鮮な異文化である。

文化摩擦を防ぐには、相手の文化を知って尊重する ² _____ が欠かせない。国連のユネスコ(UNESCO)は、世界遺産条約にもとづいて ³ _____ を登録し、各地の文化や自然を守る活動を進めている。自国の文化に誇りをもちながら、ほかの文化も大切にする姿勢が、世界の平和につながる。

2 宗教のちがいと共存

宗教

7 国や民族をこえて広が
った宗教。9 憲法が保障する、宗教を
信じる自由。10 ちがいを受け入れ、認め
る心。

宗教は、人々の考え方や暮らしに深く関わっている。国や民族をこえて広まった ⁴ _____ ⁵ _____ ⁶ _____ は ⁷ _____ とよばれ、そのほかにインドで信者の多い ⁸ _____ など、地域ごとに根づいた宗教もある。同じ宗教でも、国や地域によって習慣や行事にちがいがみられる。

宗教のちがいが、民族や領土の対立と結びつくと、争いに発展することもある。エルサレムは、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教の聖地とされ、周辺では今も対立が続いている。日本国憲法は第20条で ⁹ _____ を保障している。世界の平和には、信じる宗教がちがう人どうしが、¹⁰ _____ の心が大切である。

宗教	主に広まった地域
⁴ _____	ヨーロッパや南北アメリカなど
⁵ _____	西アジア・北アフリカ・東南アジアなど
⁶ _____	東アジア・東南アジアなど

できた / 10